

# NPO法人 ひがし大雪アーチ橋友の会

代表者	会長 那須 襄太郎
所在地	〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東3線239番地
設立年月日	1999年10月16日
URL	<a href="http://www3.ocn.ne.jp/~arch/">http://www3.ocn.ne.jp/~arch/</a>

## 【設立趣旨】

旧国鉄士幌線の廃止により、その使命を終え解体の運命にあったコンクリートアーチ橋梁群が保存を願う多くの声に支えられ歴史的文化遺産としてよみがえった。新たな価値が与えられた旧国鉄士幌線跡地及びコンクリートアーチ橋梁群が私たちの暮らし、産業、鉄道歴史の生き証人として、また自然景観と調和した地域の遺産として価値の高いものである。本会は、旧国鉄士幌線跡地及びその周辺地域に残存するコンクリートアーチ橋梁群、線路跡その他の近代化遺産（江戸時代からおよそ50年前までにつくられた我が国の近代化に貢献した建造物をいう）の保存・利用・活用に関する事業を行うほか、近代化遺産の保存・利用・活用を志す人達とのコミュニケーションの促進やネットワーク化に関する事業、近代化遺産の実態調査及び研究、近代化遺産の保存・利用・活用方法の研究及び助言並びにこれらに関する情報・記録の収集、保存及び提供に関する事業を通じて、生涯学習の発展及び地域社会の形成・発展に寄与すべく必要な事業を行うものである。

## 【沿革】

1997年旧国鉄士幌線の廃止により、その使命を終え解体の運命にあったコンクリートアーチ橋梁群を保存する為「ひがし大雪鉄道アーチ橋を保存する会」を結成。その後、一年間、保存の為の署名簿や提案書など提出するなど活発な活動を展開。その結果、町がアーチ橋を取得することになり、保存が決定した。1999年、地域の住民がアーチ橋と線路跡の利・活用をより一層、考え実践する目的で「ひがし大雪アーチ橋友の会」に衣替えした。



第三音更川橋梁新聞記事

## 【活動目的】

旧国鉄士幌線跡地およびその周辺に残存するコンクリートアーチ橋梁群、線路跡その他の近代化遺産の保存・利用・活用に関する事業を行うほか、近代化遺産の保存・利用・活用を志す人達とのコミュニケーションの促進やネットワーク化に関する事業などを通じて地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。



第三音更川橋梁 見学会



秋の遠足 糠平川橋梁にて

## 【活動内容】

旧国鉄士幌線の5つのアーチ橋と1つのトンネルが国の「登録有形文化財」に、アーチ橋梁群は「北海道遺産」になっている。士幌線跡とアーチ橋の魅力を知って頂き、この地への来訪者を増やして地域振興を図る為に会員の募集、友の会だよりの発行、アーチ橋散策地図の作成、線路跡を歩く四季の遠足、アーチ橋写真コンテストや写真展、フォーラムの開催、HPによる全国への情報発信、士幌線の現役時代の原風景を取り戻す「鉄道再現事業」と再生した線路を使用して「トロッコの走行」、復元した線路に沿っての桜の植樹、指定管理者として上士幌町鉄道資料館の管理・運営などを行っている。



鉄道トロッコ 試乗会

## 【活動上の課題と今後の展望】

北海道にとって観光は重要な産業である。2011年度に道東自動車道が千歳・札幌方面から十勝まで開通し、道央から約2時間で結ばれる。地域は今ある資源を利用して、「滞在型観光」の仕掛けとメニューを用意しなければならない。産業界ではエネルギーの高騰や地球の温暖化を受け、「鉄道の復権」が言われている。観光においてもマニアの世界であった「鉄道ファン」に女性が増え、鉄道が観光資源になり得るということが、さいたま市の「鉄道博物館」の盛況ぶりからも証明されている。旧国鉄士幌線は1987年、廃線になったが、士幌線跡に残っていたコンクリートアーチ橋群を市民活動により解体の危機から救った後、アーチ橋群と線路跡は上士幌観光の重要な柱になっている。約18kmの士幌線跡は鉄道ファンだけでなく、自然散策、写真撮影が趣味の方にも魅力のある場所である。今後、ソフト、ハードを整備することで、来訪者の滞在時間が長くなり、ぬかびら源泉郷との組み合わせで滞在型観光の資源として育て、観光による地域の活性化を図る。



夏の遠足 タウシュベツ川橋梁にて